

## マーケットの動き (2019年12月9日~12月13日)

米国・ドイツ国債市場は、前週末比でほぼ横ばいの推移となりました。  
英国総選挙は事前予想通りの結果となり、金利への影響は限定的でした。  
米中通商協議の合意期待を背景に、米国10年国債利回りは一時1.9%台へ上昇しましたが、金曜日に発表された内容が市場期待を下回ったことなどから金利は低下し、前週末比でほぼ横ばいとなりました。

## 投資環境見通し (2019年12月)

## 米国、欧州ともに長期金利は上昇に向かう

- 米国：当面は、米中貿易協議の進展や経済指標が材料視されると考えられます。米中貿易協議については、引き続き両国からの報道内容に反応する展開が続くとみえています。ただし、米中貿易協議「第一段階」合意に向けて進展するとみられることから、長期金利は上昇に向かうとみえています。
- 欧州：ユーロ圏固有の材料に乏しい状況下、当面は米中貿易協議や英国総選挙を巡る報道内容に反応しつつ、ドイツ長期金利は上昇に向かうとみえています。

	12月13日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (米国、%) (変動幅)	1.82	▲0.02	▲0.05	▲0.27	▲1.09
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	472.22	1.31%	1.59%	3.23%	3.78%

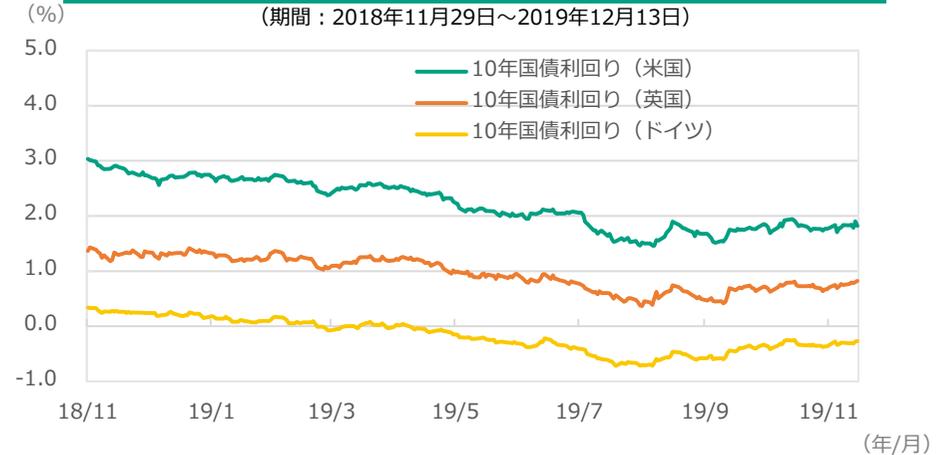
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/201912\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/201912_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し(総合)の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国国債利回りの推移



## FTSE世界国債指数の推移



※2018年11月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成